

9. 高知医療センター・高知県立大学包括的連携事業：看護・社会福祉連携事業

1) 看護・社会福祉連携事業について

高知医療センターと高知県立大学は、医療・健康・福祉・栄養分野における交流連携を推進し、双方の実践、教育、研究の質向上を図るとともに、地域・社会への貢献を促進するため、平成 22 年 11 月に両組織間の包括的連携協定を締結した。これは、高知医療センター看護局と本学看護学部が、よりよい看護の実現を目指して平成 18 年から取り組んできた看護連携型ユニフィケーション事業を発展させたものである。現在はこの協定に基づき、全体を統括する包括的連携協議会の下に、健康長寿・地域医療連携部会、看護・社会福祉連携部会、健康栄養連携部会、災害対策連携部会の 4 部会を設置し、さまざまな連携事業を展開している。

このうち看護・社会福祉連携部会では、看護および社会福祉に関する連携事業として、①学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供、②基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力、③教員によるコンサルテーションの実施、④臨床実践能力（知識・技術・態度）及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究、⑤県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催、⑥その他看護・社会福祉連携活動の実施、を行っている。

(1) 看護・社会福祉連携部会の委員および活動状況

令和元年度は部会委員を、高知医療センター19名（看護局7名、地域連携室12名）、高知県立大学10名（看護学部7名、社会福祉学部3名）、計29名で構成し、活動を推進した。今年度は高知医療センター側が部会長および事務局を務めた。

看護・社会福祉連携部会では、今年度の活動方針と前年度3月の会議で立案した事業計画の確認を4月の会議で行った上で事業を進めた。また、下記のとおり2回の会議とメールでの中間評価により、事業実績と課題の確認を行った。

・第1回看護・社会福祉連携部会：4月開催

今年度の部会の運営および活動方針の検討、事業計画の確認等

・メールでの中間評価：10月

事業実績および活動評価の確認、後期に向けての課題・活動計画の検討等

・第2回看護・社会福祉連携部会：3月開催（新型コロナウイルス感染症対策のため、看護連携部会、社会福祉連携部会それぞれにメールで会議）

事業実績および活動評価の確認、次年度の活動計画の検討等

(2) 看護部会における事業実績

事業計画に基づき事業を展開した。最終的な事業実績は表1のとおりである。

表 1. 令和元年度看護部会における包括的連携事業実績

1. 学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供
1) 学部生および大学院生の臨地実習
学部生：ふれあい看護実習、看護基盤実習、急性期看護実習、慢性期看護実習、母性看護実習、小児看護実習、助産看護実習Ⅰ・Ⅱ、総合看護実習（小児・急性期・慢性期・助産看護領域）、看護管理実習（小児・急性期・慢性期・助産看護領域） のべ323名
大学院生：がん看護学実践演習Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ、クリティカルケア看護学実践演習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、小児看護学実践演習Ⅰ・Ⅳ、★慢性看護学実践演習Ⅲ のべ13名

2)大学院生および教員の臨床研修

大学院生：緩和ケアカンファレンス・キャンサーボードへの参加（がん看護学領域、15回・のべ38名）、小児科医開催のカンファレンスへの参加（小児看護学領域、4回・のべ4名）、急性期領域のセミナー等への参加（クリティカルケア看護学領域、5回・のべ5名）
教員：緩和ケアカンファレンス・キャンサーボードへの参加（がん看護学領域、1回・のべ1名）、小児科医開催のカンファレンスへの参加（小児看護学領域、16回・のべ17名）、急性期領域のセミナーへの参加（急性期看護学領域、1回・のべ1名）、CNSとしての臨床研修（小児看護 CNS；11回）、★産後2週間検診への参加（母性看護学領域、4回・のべ8名）

2. 基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力

1)医療センターによる教育・研究支援

(1)教育支援

学部生：ナースカフェへの参加（2回・のべ4名）、インターンシップ（3回生40名）、ドクターヘリ見学および「ドクターヘリの運用とフライトナースの役割について」（4回生8名）、実践的知識獲得へのサポート：「医療安全について」（2回生84名）・「医学的知識を活用した看護実践」（3回生82名）・「感染管理について」（3回生82名）、急性期看護論ゲストスピーカー「クリティカルケアの場における死と看取り」（2回生83名）、終末期看護援助論ゲストスピーカー「終末期にある患者と家族のケアの実際」（3回生79名）

未実施：小児看護の魅力語る会（新型コロナウイルス感染症対策のため開催中止）

大学院生：クリティカルケア看護方法論Ⅱ特別講義「クリティカルケアにおける倫理的課題－臓器移植に焦点を当てて」（博士前期課程クリティカルケア看護学領域3名）

(2)研究支援

学部生：学部生看護研究における研究対象者の紹介（基礎看護Ⅱグループ、助産コース）

大学院生：修士論文における研究対象者の紹介（5題）、博士論文における研究対象者の紹介（2題）

教員：教員の研究における研究対象者の紹介（4題）

2)大学による教育・研究支援

(1)継続教育支援 ※参加者数は医療センターのみ

研修「ストレスマネジメント」「グループマネジメント」「高齢者ケア1」「高齢者ケア2」への講師派遣、実地指導者リーダーフォローアップ研修への教員の参加（2回・のべ26名）、教員による若手看護師のキャリア・サポート「専門職としてのキャリア・デザイン」（8名）、マネジメントリフレクション（看護管理学領域、3回・のべ65名）、シミュレーション教育学習会（2回・のべ16名）、シミュレーション研修「けいれんの初期対応」のトレーニングならびに勉強会；4Aフロア（小児看護学領域、2回・のべ12名）、シミュレーションを活用した病棟の学習会；5Bフロア（クリティカルケア看護学領域、2回・のべ13名）、シミュレーションを活用したリーダー育成；7Bフロア（クリティカルケア看護学領域、1回・8名）、高齢者へのせん妄予防介入；認知症・精神疾患がある高齢者ケア検討会（クリティカルケア看護学領域・老人看護学領域、3回・のべ35名）、★症例検討会；2Cフロア（精神看護学領域、2回・のべ17名）

未実施：化学療法を受ける子どもへの看護に関する勉強会（新型コロナウイルス感染症対策のため開催中止）、ビーズ・オブ・カレッジ研修会（実施会社内部の担当者変更のため未開催）

<p>(2)研究支援 看護研究 4「看護研究を系統的に学ぶ」(3名)</p>
<p>3. 教員によるコンサルテーションの実施 QC サークル活動のコンサルテーション(看護管理学領域、8回・のべ91名)、CNS申請に向けてのサポート(がん看護学領域、家族看護領域各1名)、★シミュレーションを活用した病棟の学習会(産科救急時の対応 第2・4水曜日開催)の内容を今後の実践・災害看護につなげる方法の検討(母性看護学領域、1回・2名)</p>
<p>4. 臨床実践能力(知識・技術・態度)及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究 共同研究(3件、うち1件は新規)</p>
<p>5. 県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催 1)市民を対象とする共同事業 「赤ちゃん同窓会」企画・運営への学生・教員の参加 2)専門職者を対象とする共同事業 妊産婦救急救命基礎研修(BLSOプロバイダーコース)の運営(3回)</p>
<p>6. その他看護・社会福祉連携活動 ★インドネシア ガジャマダ大学との国際交流における協働;病院見学および災害への備え等についての説明</p>

★は新規事業

(3) 事業評価および次年度への課題

本部会のこれまでの課題として、看護と社会福祉での連携活動が展開できていないことがあった。そこで今年度は、社会福祉連携部会で毎月行われている事例検討会を、社会福祉と看護で連携して実施することを活動方針として取り組んだ。毎回、高知医療センター地域医療連携室からの連絡を受け、事例検討会のテーマと話題提供者を看護学部内で広報し、看護学部教員、健康長寿センター看護職員、大学院生など複数名が参加した。事例について社会福祉と看護の視点を織り交ぜて検討することで、対象者理解や関わりのプロセスの振り返りがより深くできるだけでなく、互いの専門領域の考え方や活動を知ることによって刺激になっており、今後も連携を継続していきたいと考える。

また、看護連携部会では、今年度も両施設の連携の下で活発に活動を行った。継続して行い定着してきている事業が多いが、新規事業も6件あった。年度末には新型コロナウイルス感染症拡大に伴う予防対策のため、実施予定だったいくつかの事業が中止となったが、それ以外のほとんどの事業は円滑に実施でき、それぞれに効果が得られている。しかし、年度末の活動評価ではいくつかの課題や今後に向けた要望が出てきており、これらを踏まえて、次年度もより効果的な活動が展開できるよう高知医療センターとの連携強化を図っていく。

2) 高知医療センター・高知県立大学スキルズラボ

(1) 高知医療センター・高知県立大学スキルズラボの相互利用の概要

高知医療センター2階205に高知医療センタースキルズラボが開設されている。本学からは、医療センター看護局を通じて高知医療センターのイントラネットを使用して事前予約をおこなってから使用することになっており、主に学部生実習などの目的で使用している。高知医療センターの医師や看護師も事前予約の上、本学に設置している設備および備品(シミュレータなど)を使用できる。申込書類は総務企画課に提出されるため、設備および備品の管理責任者は総務企画課から連絡があった場合、設置室、設備および備品を確保する。

(2) 高知医療センタースキルズラボの利用実績

令和元年度（9月末現在）における高知医療センタースキルズラボ使用実績として使用人数は978名であり、そのうち本学の使用は5件で使用人数は97名であった。昨年度（7件、使用人数は113名）より減少が見られる。今後の利用促進が課題である。

(3) 高知県立大学スキルズラボの利用実績

本年度の高知医療センターによる本学施設の利用実績として、9月29日（日）に妊産婦救急救命基礎研修（BLSO プロバイダーコース）が実施された。全体で14名が参加した（センター職員5名、領域教員4名、学部学生4名）。2月8日（土）には高知医療センターでBLSOインストラクターコース、2月9日（日）にはBLSOプロバイダーコースを実施した。

(4) 高知医療センター・高知県立大学スキルズラボ運営委員会

本学からの委員として、池田教授と井上講師が出席している。本年度は10月に第1回スキルズラボ運営委員会が開催された。機器等の整備状況、使用実績および令和2年度の機器整備等予算について話し合われた。運営委員会での議論は、高知医療センターとの包括的連携協議会において報告された。

(5) 次年度の課題

本年度は昨年度に比べて、本学からのスキルズラボ使用実績が少なかった。本学教員、学生の積極的な利用が望まれる。高知医療センター・高知県立大学スキルズラボ運営委員会も、もう少し頻回の開催が期待される。これらのことを進めることによって、両機関のスキルズラボの相互乗り入れを促進していく必要がある。